

オウム対策住民協議会

烏山地域オウム
真理教(現アレフ)
対策住民協議会

十一月十五日オウム反対抗議集会

烏山区民センターホールを埋め尽くす デモ参加者六〇〇人!

オウム真理教(現アレフ)解体への道標

有田芳生さん講演より

十一月十五日(木)会場である烏山区民センターは満員の聴衆でふくれあがった。思い起こせば昨年の十二月にオウム真理教(現アレフ)が姑息な手段で烏山に住んでから、ほぼ一年が経過しようとしている。どうしたらオウム真理教を解体させることが出来るか。講師の有田芳生さんの話に全聴衆が耳を傾けた。オウム真理教の犯罪史から話しは始まった。



麻原彰晃は政治家を志し上京したが挫折。その後ヨガの道場を設立し信者拡大を図る。九十年に真理党を結成、総選挙に出馬するが全員落選。この事を機に強暴なテロ集団へと変貌していく。内部でのリンチ、VXガス事件、松本サリン事件、坂本弁護士一家殺害事件、地下鉄サリン事件へと一層の武装化へと進んでいった。一般社会から隔離された集団の恐ろしさ、異様な世界が裁判の証言の中で語られている。

「殺人は一般社会では、犯罪であり許されないことですが、必ずしも教義上では許されない行為ではありませんでした。」麻原の指示であれば、殺人をも容認する集団であったことの証明です。

オウム真理教(現アレフ)を解体させるには

二〇〇〇年一月にオウム真理教からアレフに名称を変更したが、アレフの麻原についての見解は「裁判が今なお係争中で判断はできないが関与したのではないかと思われる」と麻原から完全決別はしていない。新方針の文書には、麻原を「天才的な瞑想家」「霊的存在」と高く評価している。また、アレフの代表上祐

史浩は一連のサリン事件には関与していないと言っているが、一九九三年八月、山梨の第三サティアンでこんな会話が交わされていた。そこにいたのは麻原彰晃、上祐史浩、村井秀夫、新実智光、遠藤誠一など。麻原からサリンのプラントを作る激励を受け、上祐が「七トンのプラントを作るのではないですか」と言うと麻原が「いきなり大きいからいいや、七〇トンくらい」といつてました。(滝沢和義の法廷証言七〇トンと言えば日本人全員を殺せる量だそう)。以上のことでも分かるように、未だ、麻原を心の拠り所にし、一連のサリン事件にも関わりが無いように装っている上祐が代表の現アレフをどうして私達が信用できるでしょうか。

有田さんは長野県の北御牧村でのオウム反対運動が地方の議員、議会そして国会議員を動かすオウム真理教を徹底させる原動力になったことを紹介。また、オウム信者の脱会を促すことも重要な闘いであると話された。地下鉄サリン事件を始めほとんどの事件に関わった中川智正は京都府立医科大学では六年間車椅子のボランティアをしていたところやさしい男だった。ある時友人に誘われて説法会に出席し麻原に直接声を掛けられ、道場に通うようになる。それから六ヶ月で出家し、一ヶ月半後には坂本弁護士一家殺害事件の実行犯になる。この若者のように、ヨガや健康への関心あるいは超能力への憧れ、そして現状の社会への怒りや反発。そんな動機からオウムに入信し、麻原の呪縛の元で凶悪事件に関わった若者達が大勢いた。人生の出発点でつまずき、殺人者の烙印をおされてしまう結果になってしまったのだ。オウムさえなければ、麻原さえいなければ、こんな悲惨なことにはならなかった。

オウム真理教(現アレフ)を解体するには、信者の脱会を促す事が重要な闘いになっていくことを感じさせた。

住民協議会実行委員 宮崎隆一

【特別寄稿】西村 雅史 (ネット上でオウマーのホームページを主催) オウマーが見た反対運動

私は、当時オウムが経営していたサティアンショップなるお店に行つて、サマナ服を着たお姉さん(冷静に考えれば毒ガス殺人集団構成員ですけれど)と歓談して、「私はやってない」なんて歌を買ってきて悦に入つて、マスコミに不謹慎と叩かれた、オウマーと呼ばれた連中の生き残りです。本来ならば「有田芳生講演会」に出席して、反対運動の機関誌に登場すべきでないのですが、困つた事に、既に出席してしまつて原稿を書いておいたのです。

ただ、そういう私でさえ思うのですが、破防法の是非とか枝葉の部分ではいろいろ意見があつて前なの。オウムが良いか悪いか。良いわけない。今回の講演会を聴いて思ったのですが、言ってる事は当たり前なんです。私だって、悪い集団だから興味があるのです。だって、「子供達がサマナと仲良くなって、『私は仏教、あなたはオウムね』とお互いに理解しあえて、信仰の自由が守られて素晴らしい」なんて答がないじゃないですか。



たとえば、講演でも話があつた「オウム信者への接し方」だつて、私が言つても、言う事は同じでしょう。

講演会で麻原芳生氏が「オウムと私/林郁夫著/文藝春秋」の中から、看護婦との関係とかを警察に言われた時には面白がる気にならなかつたが、取調べの際に人間として丁寧な扱われて(警察官は林を「先生」と呼んだそうです) 自由な気分になつた旨のエピソードを紹介しましたけど、そんな感じでしょう。じゃあ、彼らだって普通の人間かという、やはり普通じゃない。これも当然です。だって、未だに毒ガス殺人鬼の戯言を有り難く拝聴して、電気マツサージ器(尊師の脳波?)を頭につけて「修行が進む」って思つてるんだし。「布施するぞ」布施するぞ」できるだけハードな布施するぞ」ってまだやってるんだ。

ただ、会場に若い人がいないです。よく、考えて見れば、変な話です。事件当時は、上祐と同じ年代の人達が、まるで自分が起した事件かのように感じて、いろいろ考えてた気がする。だから、あの当時、オウマーなる人間が発生したのでしょ。あの当時、多くの人が「これは他人事ではない」って思つてた気がする。現在の運動は「届かない」のでしょ。まあ、いわゆる人権派が、若い人達に影響を持つとは思えません。

あの当時「江川紹子の正義」に反感を覚えた人たちが、人権派を応援して「地域との共存」を模索する気持ちにはさらさらなく、ヒステリックに絶対正義を振りかざしてオウムを叩けば良いのか「みたいな感じ」なのでしょう。

結局、「オウムを脱会させるのは絶対善に決まってるのだが、どう「着地」させるか、そこで誰もが悩んでる」という気がします。

第4回オウム真理教(現アレフ)反対抗議集会・学習会アンケート集計報告

【実施日 2001.11.15】 【回収枚数 207枚】

1. 抗議集会、学習会に参加したことがありますか？

初めて	2回目	3回目	4回目	白紙
88	51	23	42	3

2. 貴方のお住まいは？

北鳥山	南鳥山	給田	粕谷
53	88	16	9
上祖師谷	上北沢	八幡山	その他
10	2	18	15

<その他>
 世田谷区・・・5
 新宿区・・・1
 杉並区・・・1
 調布市・・・2
 多摩・・・1
 三鷹市・・・1
 その他・・・4

3. 抗議集会、学習会に対するご意見、オウム対策住民協議会活動に対するご意見。住民協議会ニュースに対するご意見など沢山いただきました。

- ・前の様に住みよい鳥山にしてほしい、そのためには住民をまき込んだ活動をしてほしい。
- ・それには鳥山だけではなく、世田谷区全域ひいては国全体の問題としてほしい。
- ・再びあのサリン殺人事件のような事が起きないようにするにはどうしたら良いか。
- ・オウム信者を改心させオウムを解体させるには、有田氏の話聞くような学習会を続けてほしい。
- ・若い人にも参加を呼びかけてほしい。

等々。

○住民協議会としてもいただいた沢山のご意見をしっかりとらえて、解りやすい紙面、ニュースを通じての情報提供など行いながら反対運動を続けて行きたいと思えます。

住民協議会活動報告

- 10月27日(土) 実行委員会
 ・11月15日学習会と抗議集会打合せ他
- 11月5日(月) 広報部会
 ・「住民協議会ニュース」10号校正と11号内容打合せ
- 11月10日(土) 住民協議会
 ・11月15日学習会と抗議集会最終打合せ
- 11月13日(火) ・「住民協議会ニュース」10号発行
- 11月15日(木) ・学習会、抗議集会チラシ配布
 ・学習会、抗議集会広報車にてPR PM1:00～4:00
 ・学習会、抗議集会
- 11月17日(土) 企画部会
 ・11月24日実行委員会の議題内容検討
- 11月24日(土) 実行委員会
 ・11月15日学習会、抗議集会反省と今後の活動について

署名・募金部より

◆署名164,000人集まる！

世田谷区で集められた署名164,000人分を、12月3日要請書を添えて小泉純一郎首相あてに届けられた。

◆11月20日までの募金状況報告(順不同)

- ・鳥山駅前通商店街振興組合<¥500,000>
 - ・鳥山商店街振興組合<¥250,000>
 - ・真中共栄会<¥60,500>
 - ・きぬた本村商店街振興組合<¥50,000>
 - ・松丘町会、玉川田園調布会<¥20,000>
 - ・千歳船橋参商会商店街振興組合<¥12,400>
 - ・喜多見商店街振興組合・深沢中央商店会・弦巻商店街・二子玉川商店街振興組合・二子玉川商店街振興組合・北沢五丁目商店街振興組合・代沢商栄会・経堂小学校通り三ツ和会・八幡山商店街八栄会・明大前商店街振興組合・粕谷商誠会・三軒茶屋商店街振興組合・用賀商店街振興組合(役員一同)・用賀商店街振興組合・祖師谷商店街振興組合・代田商店会<¥10,000>
- 以上の団体より募金がありました。

詰所だより(GSハイムより)

～麻原ビデオを見る信者～

11月25日の夕方外出先から戻り廊下を歩いていると、オウム信者が多数居住するサンサンマンションで複数の部屋の窓が開いており、それらの部屋では信者がTVを見ている様子が視野の中に偶然入ってきた。夕暮れの薄暗闇を通した画面には紫色の衣装を着た人物がなにかを話しているらしい様子が見て取れた。麻原ビデオを見ているのである。

アレフは名称変更時にオウム真理教の教義のうちから麻原が説く危険な教義部分は削除したので、アレフの教義は他の宗教の教義と同様に安全な思想であると弁明している。私がオウム真理教を危険視するのは、心の平安を説くはずの宗教家がサリン事件に見られる如く大量無差別テロという手段を思いつくこと自体の怖さである。

現在「炭そ菌」がアメリカ国民を不安に落とし込んでいるが、我国では既に数年前にオウム真理教が「炭そ菌」を用いて事件を起こしている。知識集団であるオウム真理教は、サリン事件にしる炭そ菌事件にしる彼等が持てる知識を悪用した集団である。

我国では危機管理の認識が甘く思想や人権の領域に関する事項に踏み込むことに関しては総じて及び腰であるが、オウム真理教に対してのアメリカ政府の認識はテロ集団である。麻原ビデオを見る信者の姿から、私は麻原の影響力は依然として存在しており、狂信者が一人でも現れればその持てる知識を悪用した惨事が再び起こりうる可能性があると思えた。

GSハイム鳥山オウム対策協議会 副会長 西内 紘一